



2018年7月27日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ジ ャ フ コ
代 表 者 取 締 役 社 長 豊 貴 伸 一
コ ー ド 番 号 8 5 9 5 東 証 第 一 部
問 合 せ 先 管 理 部 広 報 担 当 緒 方 健 人
T E L 0 5 0 - 3 7 3 4 - 2 0 2 5

当社米国子会社に係る収益計上方法変更及び同子会社の連結除外について

2019年3月期第1四半期より、当社の100%子会社である JAFCO America Ventures Inc. (JAV) が受け取る管理報酬の収益計上の方法を変更するとともに、同社を連結の範囲から除外しましたので、お知らせいたします。

1. 概要

ベンチャーキャピタル (VC) 業は地域性が高く、親会社が海外での投資活動を支配するマネジメントは適さないため、当社の米国投資は、ローカルのベンチャーキャピタリストから成るチームが独自のファンドを運営し、投資の意思決定も独自に行って来ました。

また、当該ファンド資金の調達は、従来は当社及び当社が国内において設立したファンドからの出資に依存していました。しかし、米国におけるファンドサイズの大型化に対応して、2013年からは独自のファンド募集を実行し、外部出資の割合も高まっています。さらに、米国におけるブランド強化の観点から、チーム名も Icon Ventures に刷新しました。

こうした状況を踏まえ、この度公表された「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)(以下「収益認識会計基準」)等を適用し、JAVの売上と経費を相殺表示した結果、当社の連結財務諸表に対する重要性が低下するため、JAVを当社連結の範囲から除外することとしました。

なお、当社は、連結除外後も Icon Ventures が運用するファンド(以下「Iconファンド」)のGP (General Partner) であるとともに、主要な出資者として、米国投資にコミットしていきます。

2. 見直しの背景と経緯

今回の収益計上方法の変更及び連結範囲の見直しの背景や経緯は、以下の通りです。

(1) 米国での投資活動における JAV の位置づけについて

ベンチャー投資は地域性の高いビジネスです。米国における当社の活動についても、経験豊富なローカルのベンチャーキャピタリストから成る投資チームが、自ら投資活動の意思決定を行って

います。また、その運営のしくみも、米国の VC が標準的に用いている方法を採用することで、ファンドパフォーマンスの向上を目指してきました。

①米国 VC の運営形態と当社グループの投資活動

米国の VC では、投資の意思決定などの GP としての業務を、ファンドごとに設立される LLC (Limited Liability Company) において行います。さらに、LLC の実務 (ファンドの会計、ベンチャーキャピタリストへの報酬等の支払業務など) は、別途設立された Management Company (以下「マネジメント会社」) において一括して行われるのが一般的です。ファンドからの管理報酬は、マネジメント会社を集約され、ファンドを運営するための費用に充当されます。

当社の Icon ファンドシリーズ (1~6 号の計 6 ファンド) の運用においても、他の米国 VC と同様、ファンドごとに設立した 6 つの LLC において投資活動の意思決定等の GP 業務を行っています。一方で JAV は、一貫して Icon ファンドのマネジメント会社としての機能を担っています。JAV が Icon ファンドから管理報酬を受け取るとともに、その範囲内で米国における投資活動における費用を負担しています。

②外部投資家からの資金調達成功

Icon ファンドは、当社の米国投資チームのマネージングゼネラルパートナーである Joe Horowitz 氏らによって 2003 年に運用が開始され、現在では 6 号ファンドへの新規組み入れを行っています。

特に、米国の VC 業界におけるファンドサイズの大型化に対応する中で、2013 年には 5 号ファンドにおいて米国投資チームが主体となり外部の投資家からのファンド資金調達に成功しました。続く 6 号ファンドでも外部の投資家からの資金調達を行っており、5 号、6 号ファンドを通じた外部投資家による出資額は相当程度にのぼっています。

③ブランド名の刷新

さらに、2015 年からは、米国投資チームのブランド名を「Jafco Ventures」から「Icon Ventures」に刷新して投資活動を展開しており、米国 VC マーケットにおける Icon Ventures の存在感も増しています。

④米国での活動費用

このように、ファンドの資金調達から投資活動における意思決定までを、米国投資チームが独自に行うようになりました。またこれに応じて、Icon ファンドから得られる管理報酬を原資とする米国での活動費用についても、米国投資チームの意思により消費する部分がこれまでに比べ大きくなってきました。

(2) JAV の収益計上方法の変更及び連結の範囲からの除外について

Icon ファンドによる当社の米国投資が上記のように変化する中、2018 年 3 月に我が国において収益認識会計基準が公表されました。これを受け、当社における取り扱いを検討した結果、2019 年 3 月期第 1 四半期より次のように見直すことにしました。

①収益計上方法の変更

これまで、JAV が Icon ファンドから受け取る管理報酬は、当社の連結損益計算書上、その総額を、投資事業組合管理収入として売上に計上するとともに、JAV における米国での活動に要する費用の総額を、販売費及び一般管理費に計上していました。

当社では、収益認識会計基準の公表に伴い、その基準を JAV に適用した場合、Icon ファンドの管理報酬に係る収益をどのように当社の連結損益計算書に計上するべきかの検討を行いました。その結果、Icon ファンドのマネジメント会社としての機能やその運営等を考慮すると、JAV が受け取る管理報酬を、従来の総額による表示ではなく、販売費及び一般管理費と相殺した純額のみを収益として計上する方法が、実態をより適切に表すと判断しました。

②連結の範囲からの除外

上記のように VC 業は地域性が強く、米国での投資活動を日本の親会社（当社）が支配するというマネジメントが馴染まないという特質があります。さらに、直近では米国投資チーム自らによるファンド資金の調達実績も上がっています。こうしたことから、Icon ファンドのマネジメント会社として米国の投資活動の一端を担う JAV を連結することが、VC 業の本質や実態と整合しない面も出てきています。

今回、管理報酬を純額表示とすることで、当社の連結財務諸表に対する JAV の重要性が低下するため、その質的重要性も考慮し、同社を非連結子会社とすることといたしました。

3. 見直しの影響について

以上のような収益計上方法の変更及び連結範囲の変更により、連結損益計算書の「売上高」及び「販売費及び一般管理費」が、それぞれ 285 百万円、309 百万円減少するとともに、「売上原価」が 79 百万円増加しています。

一方で、米国における投資活動の状況や成果を示す、当社の連結財務諸表上の営業投資有価証券の残高、キャピタルゲイン及び成功報酬、並びに連結損益計算書の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に対する重要な影響はありません。

なお、この連結範囲の変更の後も、当社における米国での投資活動は、従来と同様、現状の米国投資チーム及び Icon ファンドを通じて行われ、JAV は、引き続き Icon ファンドのマネジメント会社としての業務を行います。

以 上